

令和3年松本市議会6月定例会
市長閉会あいさつ

[3.6.24(木) PM1:30]

発言の機会をいただきましたので、閉会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

議員の皆様には、18日間に及ぶ会期中、熱心にご審議を賜り、それぞれの議案を原案どおり決定をいただいたことに、厚く御礼を申し上げます。この議会でいただいた市政各般にわたるご意見、ご提言につきましては、今後、十分に研究、検討を行ってまいります。

変異株の広がりによって拡大した、新型コロナウイルスの感染の第4波は、市民一人ひとりの対策の徹底と4月に設置した保健所の積極的な取り組みにより、峠を越えようとしています。

目下の最大の課題は、ワクチン接種の加速化です。65歳以上の高齢者の接種を7月末を目途に完了すると共に、基礎疾患を持つ方々に対しても、来週以降、順次接種を進めていきます。その上で、それ以外の市民ができるだけ早く接種を受けられるよう、日々刻々と変わる政府の動向を的確にとらえ、官民で連携してオール松本で取り組んでまいります。

コロナと向き合う中で3年ぶりに開催された「信州まつもと大歌舞伎」は、計7公演に8,500人余りの観客が訪れ、無事に千秋楽を迎えることができました。

開催に当たっては、出演者・スタッフ・市民サポーターに対するPCR検査、ホールの頻繁な換気、CO2モニターによる過密状況の測定を行うなど、安心安全な文化芸術イベントの実現のために、関係者が最大限の注意を傾けてまいり

ました。

しばらくは、新規陽性者の推移を見守る必要がありますが、松本市は、今回の開催方法を1つのモデルとして、引き続き、様々なイベントに前向きに取り組んでまいりたいと考えています。

来月3日からは、「松本まちなかアート」と銘打って行う通年プロジェクトが始まります。松本にゆかりのある文化や芸術に接する機会を中心市街地で提供し、街中に新たな人の流れを生み出そうという企画です。

その中心となる「パルコ de 美術館」は、松本パルコ6階に特設スペースを作り、地元の新進気鋭の作家によるアート作品を、草間彌生作品と共に紹介していきます。

この開幕に合わせて、3回目となる「キャッシュレス決済ポイント還元事業」を、来月18日まで実施します。市民の皆さんが気軽に街中に足を運び、安心安全な賑わいと地域経済の回復につながっていくことを期待しています。

8月21日からは、セイジ・オザワ松本フェスティバルが開催されます。2年ぶりの開催に先立ち、小澤征爾総監督の意を受けて、「サイトウ・キネン・オーケストラ財団」が設立されました。マエストロ小澤征爾の理念をオーケストラそのものに継承し、フェスティバルの未来を強化することが目的です。

今回のプログラムは、小澤さんと共にオーケストラのメンバーが指揮者や曲目の決定に関わって構成されました。小澤さん自身も、松本に来ることを楽しみにしていると話しています。スタートから30年を迎えるフェスティバルで、再び世界最高水準の音楽を堪能できることを楽しみに待ちたい

と思います。

コロナ禍と歩調を合わせるように苦しい戦いが続いていた松本山雅の新監督に、名波浩さんが就任しました。松本市がホームタウンになってから10年の節目に、体制が刷新されることを前向きに捉えたいと思います。

自身が述べているように、監督ひとりに「過度な期待は禁物」かもしれませんが、これを引き金に、クラブ全体が変革と挑戦へ向かっていくことを期待します。

議員の皆様には、時節柄、健康にくれぐれもご留意をいただき、引き続き松本市の発展にご協力を賜りますようお願い申しあげ、6月定例会の閉会の挨拶といたします。

ありがとうございました。

(以上)